

JAPIC NEWS

5 2006.
月号
(No.265)



CONTENTS

《巻頭言》

- 「ニーズに則した医薬品情報の提供」2
三菱ウェルファーマ株式会社 取締役社長 小峰 健嗣

《お知らせ》

- 第125回薬事研究会開催4
第8回JAPICユーザ会開催5
JAPIC医療用医薬品集インストール版2006年4月新発売6
添付文書記載病名集2006 4月薬価改定版発刊7
2006年度JAPIC-Qサービス、JAPICデータベース採択誌の変更8
医薬品類似名称検索システム 料金改定9

《トピックス》

- 「第34回JAPIC医薬情報講座」参加記 田辺製薬株式会社 松田雅雄10
大韓民国調査団来訪/日本薬学会で首藤理事長受賞12
新入職員紹介13
「理事会」「評議員会」の概要報告15

《シリーズ》

- 東南アジアの医療事情(1) ラオスと薬草17
元国際協力機構派遣専門家ラオス教育省 沢田誠二
《図書館だよりNo.191》20
《4月の情報提供一覧》23



「ニーズに則した医薬品情報の提供」

三菱ウェルファーマ株式会社 取締役社長

小峰 健嗣 (Komine Takeshi)

(JAPIC 評議員)

「医薬品は情報を伴った化学物質である」と言われているとおり、有効性の高い医薬品であっても適正使用の情報が備わっていなければ、医療に貢献することはできません。したがって、製薬企業は、添付文書、製品情報概要などの基本情報や緊急安全性情報などの安全性に関する情報を、MRを通じ、直接医療関係者に提供するほか、現在ではほとんどの製薬企業がインターネットのホームページ上にこれらの医薬品情報を公開しています。ITの急速な進展・普及により、製薬企業は、インターネットという情報提供の新たな場を得ることが出来たわけですが、その一方で、医療関係者からは、アクセスできる情報の絶対量が増えるばかりで情報が氾濫し、使い勝手が悪い、整理がつかない、あるいは欲しい情報が十分に届いていないという指摘があることも事実です。

製薬企業は、溢れる情報の中から医療関係者が求めている情報は何であるかを的確に把握する必要があります。そのためには、患者さん、医療関係者といった異なる立場の受け手にとって、何が価値ある情報で、何がそうでないのかを評価し、選択するところから始めねばなりません。

健康への関心の高まりや、インフォームドコンセントの普及などに伴い、患者さんのみならず、一般の方々の医薬品情報に対する意識も大きく変化しています。疾病の治療法や医薬品の選択など、医薬品情報を直接知りたい、確かめたいというニーズに対して、これに呼応するように、医薬関連の書籍、インターネットのホームページも増加し、情報へのアクセスも益々容易になってきています。このように、以前は医療関係者以外ではなかなかアクセス出来なかった医薬品情報が一般に利用されるようになったことから、医療関係者には患者さんや一般の方からより高度な情報が要求されるのは必然で、医療機関、薬局内では常に情報を整理し、しっかりとしたデータベースを構築していないと対応に苦慮するような場面も想定されます。

このように、患者さんや一般の方の医薬品情報に対するニーズが変化している状況の中で、製薬企業は、まず、医療関係者が直面している問題や求められている情報の本質を適切に捉えていかなければなりません。製薬企業において、医療関係者に対する情報提供と収集を直接担っているMRがそのような視点から幅広く情報を収集し、収集した情報を十分評価したうえでフィードバックする役割を果たさねばなりません。そのために製薬企業はMRの質的向上を絶えず図っていくことが重要です。

次に、こうして収集した情報から、いかに分かり易く信頼できる情報を作成し、医療関係者に使い易い形で迅速かつ確実に提供するのか、ということです。

そのためには、情報の提供対象者ごとに伝えるべき情報の範囲や情報伝達の手段を慎重に判断していく必要があります。例えば、EBMや診療ガイドラインといった標準的な情報はインターネットで提供し、患者さんの個人差に関わる専門的な情報は医療関係者との面談を通じMRが対応するなどです。情報伝達の手段としてインターネットの普及は目を見張るものがありますが、一方で、取り扱う人によって活用もされ、不用にもされるものであり、また、情報の提供は容易ながら収集は難しく、更に情報流出やコンピューターウイルスによる障害などセキュリティ上の懸念が付きまとうことも留意しておかねばなりません。

そして最後に、提供した情報について、医療関係者からの評価を得ることです。その結果を分析し、次の情報提供に生かしていくことです。こうした情報の収集、提供、評価のサイクルにより、医療関係者が求めている医薬品情報を的確に伝達し、医薬品の適正な使用を推進していくことが可能となるのです。

医療に対する関心の高まりやインターネットの普及等に伴い、患者さんや一般の方々の医薬品情報に対するニーズは今後益々増大していくでしょう。製薬企業も医療関係者のみならず、これらの患者さん、一般の方へのニーズに適切に応えていくことが望まれています。しかし、医薬品は生命に直接関わる物質であることから正しく理解されることが不可欠です。患者さんや一般の方に直接情報を提供する場合には、内容の分かり易さなどに十分配慮していくことが大切なことでしょう。

患者さん、医療関係者、そして一般の方の医薬品情報に対する意識の変化を敏感に感じ取り、収集、提供、評価を忠実に繰り返すことが、ニーズに即した医薬品情報の提供の出発点と言えるのではないのでしょうか。

Information お知らせ

第125回薬事研究会を開催します

薬事研究会を下記により開催致しますので、貴社ご関係の方々にご連絡のうえ多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日	時	平成 18 年 5 月 29 日 (月)	13:30 ~ 16:00
場	所	日本消防会館 ニッショーホール 東京都港区虎ノ門 2-9-16	
講	演	13:35 ~ 14:35	
		「医薬品医療機器総合機構における GMP 調査について」 (独) 医薬品医療機器総合機構 品質管理部長 新見 裕一氏	
		14:45 ~ 15:55	
		「GMP 調査を受けるにあたっての留意点」 (独) 医薬品医療機器総合機構 品質管理部 GMP エキスパート 平松 勝太氏	
		16:00	終了

参加費	1 名 3,000 円 (JAPIC 会員機関の方)	} 当日会場でいただきます
	1 名 5,000 円 (非会員)	

申込方法等 JAPIC ホームページ (<http://www.japic.or.jp>) に掲載の申込書に必要事項をご記入の上、メール (gyoumu@japic.or.jp) または FAX (03-5466-1814) にて平成 18 年 5 月 22 日 (月) までにお申し込みください。



第8回 JAPIC ユーザ会を開催します

平成 18 年度の「JAPIC ユーザ会」を下記の要領で東京と大阪で開催いたします。今年度の JAPIC 重点化事業、取組みについてご紹介させていただきます。

また、会員の皆様の中から JAPIC の提供する情報をご利用されての事例をご発表いただきます。特別講演として「MedDRA の最近の動向について」を日本公定書協会の櫻井靖郎氏にお話していただきます。ユーザ会終了後、簡単な懇親会も準備しておりますので参加者同士の情報交流の場にお使いください。多数ご出席いただきますようご案内申し上げます。

日時・会場 東京 6月7日(水) 13:30~18:00 長井記念館ホール
大阪 6月9日(金) 13:30~18:00 大阪商工会議所 6階 白鳳の間

プログラム

- 13:00 ~ : 受付開始
- 13:30 ~ 13:40 : 主催者挨拶 (理事長)
- 13:40 ~ 14:40 : 平成 18 年度新規事業・重点化事業のご紹介 (JAPIC 担当者)
- 14:40 ~ 15:00 : 休憩 コーヒータイム
- 15:00 ~ 15:30 : 「JAPIC 情報活用事例」 東京:ファイザー株式会社 齋藤真紀子氏
大阪:兵庫県薬剤師会 藪下圭子氏
- 15:30 ~ 16:30 : 特別講演 日本公定書協会 櫻井靖郎氏
「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」
- 16:30 ~ 16:40 : 全体の質疑応答
- 16:40 ~ 18:00 : 懇親会 東京(長井記念館ホールロビー)
大阪(大阪商工会議所 6F ニューコクサイ)

参加費 : 無料

申込方法等 : JAPIC ホームページ (<http://www.japic.or.jp>) に掲載の申込書に必要事項をご記入の上、メール (gyoumu@japic.or.jp) または FAX (03-5466-1814) にて平成 18 年 5 月 31 日(水)までにお申込ください。



平成 18 年薬価改定に対応した“JAPIC 医療用医薬品集 インストール版 2006 年 4 月版”新発売 !!

皆様にご好評頂いている“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”（CD-ROM）の 2006 年 4 月版を 4 月末に発売いたしました（年 4 回発行）。今版でも更なる収録データの拡充、機能改良を行い、ますます充実した内容になりました。

本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様は次の通りです。

収録データ

医療用医薬品データ：2006 年 3 月末までの JAPIC 医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び**平成 18 年薬価改定を反映した薬価データ**を収録

一般用医薬品データ：2005 年 3 月調査に基づくデータを収録

搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び（医療用薬）薬剤識別コード検索機能を搭載し、該当する医薬品集収録様式に基づく

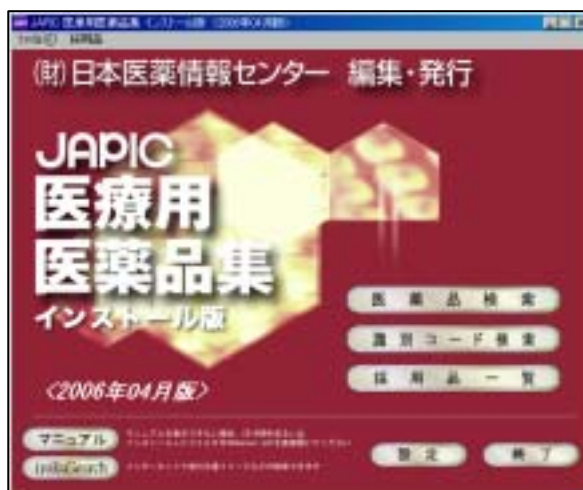
添付文書本文情報を表示することができます（表示内容に構造式イメージ、医療用医薬品添加物データを追加、参考情報として iyakuSearch 収録医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能を追加）。

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで**院内採用医薬品集**として編集でき、その編集内容を共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。

価格・お申し込み

1 枚 15,000 円（税・送料込）あるいはお得な年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供いたします。また、複数台をお申し込みの方は廉価で提供いたします。

購入ご希望・お問い合わせは、事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、FAX：03-5466-1814）までご連絡下さい。



今夏には JAPIC「一般用医薬品集」の発刊、インストール版 2006 年 7 月版の発行、9 月には『JAPIC「医療用医薬品集」2007』の発刊と JAPIC 医薬品集シリーズが次々と発刊される予定です。内容等については随時 JAPICNEWS、JAPIC ホームページ等でお知らせいたします。こちらまよろしくお願いたします。

添付文書記載病名集 2006 4月薬価改定版発刊のお知らせ

2005年12月に発刊し、皆様にご好評をいただいた「添付文書記載病名集 2006 - 刊行記念 - 」の最新版として「添付文書記載病名集 2006 4月薬価改定版」の書籍およびCD-ROM (Windows対応) を発刊いたしました。

本書は添付文書に記載された効能効果と標準病名を関連づけました。効能効果と標準病名は表形式で見やすくなっており、標準病名に対応するICD-10コード(国際疾病分類第10版)も記載しております。これらのデータの他、医薬品の適正使用の観点から、用法用量、用法用量に関連する使用上の注意、効能効果に関連する使用上の注意、警告、禁忌、原則禁忌、併用禁忌、原則併用禁忌といった添付文書の重要事項を加え、商品ごとにまとめました。今版では2006年4月改定の新薬価を掲載したほか、前版以降の新薬、改訂添付文書、また(財)医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)公開の標準病名マスターの更新に対応しております。また薬効分類索引をリニューアルし、見やすい表形式にしました。なおCD-ROM版は、検索機能に優れ、商品名、一般名検索の他、病名、ICD-10コード、薬効分類などからも検索できます。



JAPIC 医療用医薬品集の姉妹版として、皆様の業務のお役に立てれば幸いです。

【添付文書記載病名集 2006 4月薬価改定版】

- ・ JAPIC で 2006 年 1 月末までに入手した医療用医薬品添付文書および 4 月薬価収載予定品目の添付文書 (生薬・漢方製剤を除く)
- ・ B5 版, 1,350 ページ

【価格】

- ・ 書籍 7,000 円 (税・送料込)
- ・ CD-ROM 7,000 円 (税・送料込)

【お問い合わせ】

- ・ 事務局 業務・渉外担当 TEL : 03-5466-1812 , FAX : 03-5466-1814

2006 年度「JAPIC-Q サービス」、「JAPIC データベース」 採択誌変更について

「JAPIC-Q サービス」、JAPIC 作成の各種データベースの採択誌について、ユーザーのご要望および雑誌の改変に伴う若干の追加・変更を行いました。

1. 新規採択誌

「Annals of Nuclear Medicine」

「核医学」

「リウマチ科」

「Journal of Natural Medicines」(旧「Natural Medicines」)

「生薬学雑誌」(旧「Natural Medicines」)は、2006 年より英文誌と和文誌に分割発行。

「Radiation Medicine」 < 日本医学放射線学会誌と入れ替えとし追加 >

2. 採択対象外とした雑誌

「癌治療と宿主」は、18 巻 1 号で休刊のため。

「日本医学放射線学会雑誌」

3. 採択誌数

「iyakuSearch」の医薬文献情報、「JAPICDOC」、「ADVISE」 419 誌となりました。

「iyakuSearch」の学会演題情報、「SOCIE」、「JAPIC-Q サービス」 416 誌となりました。

上記採択誌は JAPIC が作成・提供する以下のサービスおよびデータベースに搭載されています。

JAPIC-Q サービス

「iyakuSearch」 医薬文献情報、学会演題情報

(JAPIC ホームページおよび So-net 「m3.com」 から提供)

JAPICDOC(日本電子計算：JIP「e-Infostream」、科学技術振興機構：JST「J-Dream」から提供)

ADVISE (JIP 「e-Infostream」 から提供)

SOCIE (JIP 「e-Infostream」 から提供)

医薬品類似名称検索システム 料金改定のお知らせ

本システムは新規医薬品と既存の医薬品との名称の類似性について客観的なチェックができるサービスです。平成 16 年 11 月のサービスの有償化以降も、多くの皆様にご利用いただき感謝申し上げます。

さて、これまで標記システムでは、検索名称数は「お申し込み 1 件につき 3 名称まで」としておりましたが、今後は「お申し込み 1 件につき 1 名称まで」と変更することといたしますので、お知らせいたします。

これは、検索に際して名称の前処理が必要となり、お申し込みの名称数に対し、実際に検索する名称数が著しく多くなるケースが増大していることから、検索にかかる処理コスト増加分として改定させていただくものです。

何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

【新料金】(全て税込み)

申込み 1 件 1 名称まで

JAPIC 会員	A 会員	10,500 円 / 件
	B・C 会員	31,500 円 / 件
JAPIC 非会員		52,500 円 / 件

従来は「申込 1 件につき 3 名称まで」でした。

【変更開始時期】

平成 18 年 6 月 1 日(木)から

詳細につきましては下記担当までお問い合わせください。

【本システムに関するお問い合わせ】

医薬品類似名称検索システム 担当

TEL (03)5466-1826 FAX (03)5466-1816



3月2日、3日に開催された「医薬情報講座」の参加記を前号に引き続き掲載いたします。

第34回 JAPIC 医薬情報講座に参加して

田辺製薬株式会社 信頼性保証本部
お客様相談センター 松田雅雄

今回の講座では、最新の医療行政に関する内容を直接ご担当されている先生方が講師であり、正に今知りたいことを聴くことができました。また、私の現在の仕事と密接に関係しており極めて有意義なものでした。さらに薬剤師会、薬科大学や出版社の先生方の講演も、多面的な医薬情報の運用の実際ということで興味深い内容でした。

全ての講演について報告したいところですが、お客様相談センターで仕事をするものの視点でほんの一部を紹介させていただきます。

○医薬品安全対策における行政の最近の動き

厚生労働省医薬食品局安全対策課 中垣 俊郎 先生

厚生労働省の医薬品安全対策のストラテジーが、「事後対応型」から「予測対応型」に、さらには「予防対応型」にシフトしてきており、それに合致した様々な施策を大変わかりやすくご紹介いただきました。個々の内容を知る機会は今までであったのですが、今回は全体を俯瞰することが出来て大助かりです。また講演の最後には、製薬企業のリスク管理の面で初動対応がいかに大切であるかをアドバイス頂き再認識致しました。

○患者向け医薬品ガイド

財団法人日本薬剤師研修センター 久保 鈴子 先生

「患者向け医薬品ガイド」に関して、弊社にも当該製品があり大変参考になりました。また、「患者様と医療用従事者向けの共通用語」作成でのご苦勞は身にしみて共感出来る部分です。患者様からの薬の問い合わせ対応は難しいのですが、特に副作用に関して説明することは一番気をつかう部分であり、本ガイドが充実していけばお客様相談センターの業務としても大いに活用させていただけると考えます。

○医療安全のための医薬品コード - 病院の立場から

東京医科歯科大学歯学部附属病院 薬剤部 土屋 文人 先生

製薬企業では「医療過誤」防止のため一昨年より種々の取り組み、例えば販売名変更や二槽バッグの隔壁開通忘れ防止表示等、を実施しています。バーコードの表示につきましては、話は聞いていたのですが、具体的なコード体系や表示する包装の単位等の詳細はこの時点で初めて教えていただいたことになりました。また私は業務として、弊社製品の医薬品情報をデータベース化する業務もしているのですが、土屋先生から医薬品情報の電子化には「医薬品の粒度」(錠剤あるいは PTP 単位にするのか etc)を考えることが重要とのご指摘があり、目からうろこの思いでした。

○Stevens-Johnson 症候群 (SJS) / TEN の診断と治療

昭和大学医学部皮膚科学教室 飯島 正文 先生

「感動しました」の一言です。飯島先生ご自身の経験も交えて具体的な症例（診断に窮した例も含めて）も紹介していただき、迫力満点の内容でした。弊社の製品でも重大な副作用として、SJS 及び TEN の記載のある製品はあるのですが、相関関係、死亡率の高さと予後の悪さ、診断の難しさ（皮膚科専門医でも困難）、ステロイド治療の是非に関する異なる見解など、参考になる内容ばかりでした。特に急転直下に症状が悪化する様を具体的な写真で示して頂き、ショックを受けるほどでした。もし、お客様相談センターに対して患者様ないし医療関係者の方より疑われる症例の問い合わせがあった場合に、正確な聞き取り、関連部門への至急報告等、早期対応に少しでも役立つことができるようにと、真剣に考えさせられました。

○妊娠と薬情報センターの取組み

国立成育医療センター 薬剤部 中島 研 先生

添付文書で“治療上の有益性が上まわると判断される場合にのみ投与すること”との記載がある薬剤に関して、「投与したいのだけど」との問い合わせをいただき回答に困った経験は何度もあります。妊娠しての経過日数を確認の上、生殖発生毒性実験、臨床報告の有無、妊婦への薬剤投与に関する書籍（例えば *Drugs in Pregnancy & Lactation*）、米国やオーストラリアのカテゴリー分類などを紹介することになりますが、中島先生よりもご指摘の通り欧米で使用されることが少ない薬剤に関しては情報量が少ないのも事実です。厚生労働省の新しい試みの中で、私自身が一番期待しているのは本取り組みでした。センターの概要をご紹介いただくにつれ、期待は膨らむばかりで、製薬会社としても是非協力できたらと考えています。

○医療薬学教育における医薬品情報

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 猪川 和朗 先生

大学薬学部での「医療情報科学」の具体的なカリキュラムの内容の紹介をご紹介頂きました。インターネットを使った演習や英語論文の読み合わせ、さらには医師会と薬剤師会の対立事件など多種多彩の内容が盛り込まれており、私の学生時代のことを思い出しますとうらやましい限りです。薬学 6 年制となり、より実力のある薬剤師が養成されることになるわけで、製薬企業のお客様相談センターでもさらなる研鑽が必要であると感じました。



大韓民国の「食品医薬品総合情報サービス構築 海外事例調査団」来訪

去る 3 月 31 日に大韓民国「食医薬品安全庁」と「食医薬品総合情報サービス構築事業団」の方 8 名が JAPIC に来られました。訪問は 医薬品の新薬許可手続き及び医療機器安全管理などの電子的請願処理及び管理に関する事例調査 医薬品及び医療機器等の安全管理のためのシステム構築及び運営事例調査を目的とするもので、日本国内の関連機関訪問のほか JAPIC の活動内容にも関心を示され来訪されたものです。

JAPIC の組織、運営全般、出版物、データベース等についてご紹介しましたが、特に運営方法、活動内容、出版物の具体例について多くの質問が出され、有意義な交流をはかることができました。

日本薬学会で JAPIC 首藤理事長 創薬科学賞を受賞

日本薬学会第 126 年会が 3 月 28 日から 30 日までの 3 日間仙台市の仙台国際センター等で開催され、当センター理事長の首藤紘一（他連名）が平成 18 年度日本薬学会創薬科学賞を受賞しました。受賞研究テーマは「レチノイドの医薬化学研究とタミバロテンの創製」。28 日仙台市民会館で受賞講演を行いました。平成 17 年 4 月に合成レチノイド Am80 が急性前骨髄球性白血病治療薬として承認されています。

また、宮城県スポーツセンターでは薬科機器・バイオ機器・医薬品展示会が 3 日間にわたり開催され、JAPIC も医薬品データベース iyakuSearch のデモ、出版物・パンフレットの展示を実施しました。



受賞講演



展示ブース

新入職員紹介

平成 18 年 4 月 1 日付けで新たに職員となった方々に自己紹介をしてもらいました。



蓼沼 宏昭

Tadenuma Hiroaki
(開発企画担当)

開発企画を担当いたします。学術情報の世界に足を踏み入れて、かれこれ 20 有余年。その間、文献情報に関わってまいりました。はじめは冊子媒体からのドキュメントデリバリーが中心でしたが、ネットワークの時代に CD-ROM をデータ媒体とした文献検索データベースの構築にかかわり、北海道から九州まで設定・講習に走り回っておりました。やがて、インターネットの時代に移行すると電子ジャーナルが普及するようになり、そこではリンクとメタサーチシステムにかかわってまいりました。国内ではこうした技術がようやく定着してきた段階かと思われませんが、これからは CMS を使ったポータル構築と RSS を使った Push 型サービス、さらにその次は・・・といろいろ模索しているところです。こうした経験を生かした新しいサービスの構築・提供が私に与えられた使命と考えております。

新人としてご紹介いただく年頃は少しばかり過ぎてしまいましたが、持ち前の粘りと頑張り、少ない知識と経験を補いながら、早く JAPIC の一員としてお役に立てるよう、邁進したいと思います。

会員の皆様をはじめ関係者皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



吉原 宏明

Yoshihara Hiroaki
(医薬文献情報担当)

出身大学は東京薬科大学生命科学部で、主にバイオテクノロジーや環境科学について勉強していました。学んできた分野だけを見ると JAPIC とのつながりは見えないと思いますが、卒業研究でお世話になった研究所が病院付属だったことが医薬品関係の仕事に興味をもったきっかけでした。医薬品の安全性に関する情報をいち早く提供するという仕事は、やりがいがあり、社会に貢献できる仕事だと考えています。ただ、私は薬学部出身ではないので、医薬品についての知識がほとんどありません。これから少しずつ覚えられるように努力していきたいと思います。これからの抱負は、基本となる仕事を早く覚えること、覚えた仕事を早く正確にできるようにすることです。

趣味は映画を観ること、音楽を聴くことです。映画を観ることが好きなので、お勧めがありましたら、是非教えていただきたいと思います。

まだ、右も左もまったくわからず、ご迷惑をかけてしまうこともあるかと思いますが、いろいろとご指導いただきたいと思います。よろしく願いいたします。



松山 みどり

Matsuyama Midori
(添付文書情報担当)

共立薬科大学薬学部を卒業後、同大学大学院に進学し、昨年度三月に博士前期課程を修了いたしました。大学院では創薬物理化学講座に所属し、卒論研究の期間を含め三年間高速液体クロマトグラフィー (HPLC) を用いて分析の研究を行ってまいりました。私が JAPIC の医薬品情報に初めて接したのは学部生の頃、図書館で添付

文書を探していた際に医療用医薬品集を目にした時です。また、大学院の研究では iyakuSearch を通じて JAPIC に触れる機会がありました。今まで参考にしてきた資料を今では自分が提供する側にいることに、不思議な縁とやりがいを感じています。六年制が始まり益々多様化してゆく薬学関係の方々にとり、少しでも多くの役立つ情報を提供できるように頑張ります。

スポーツ観戦が好きで今はサッカーの W 杯を楽しみにしています。元気いっぱい頑張りますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。



眞田 園子

Sanada Sonoko

(医薬文献情報担当)

常勤嘱託として採用となり、事業部門医薬文献情報担当になりました眞田園子と申します。十年前に上京し、大学院修士課程および製薬会社の研究所において、生理活性ペプチドの合成、蛋白の精製等に携わった後、大学病院薬剤部に移り、調剤や医薬品分析等の業務に従事すると共に、病棟活動開始に伴って小児科を担当しました。さらに、アルプスを望む大学病院に移動後は、医薬品情報室の担当としてその提供に関与しました。医療従事者及び患者様双方における医薬品情報の重要性につきましては、実際には病棟活動や医薬品情報室における業務によって再認識させられることになりましたが、医薬品情報も「天下の回り物」だと思いますので、その循環が的確かつ円滑に行われるための一助となることができるよう努めたいと思っております。皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

なお、特技はありませんが、最近、隣室の老夫婦がされていたマンションの花壇

の草取りなどを勝手に趣味としております（お歳暮もいただくので大家さんも了承済み？）。

当面の課題は「大きな声で話す」です。簡便な方法をご存知でしたらお教えいただければ幸いです。



岡安 次郎

Okayasu Jiro

(事務局業務・渉外担当)

常勤嘱託として採用となりお世話になることになりました。これまで、製薬企業の営業部門で 26 年間、本社学術の情報部門で 10 年間あまりを過ごし学んだ顧客志向の経験を会員の皆様にすこしでもお役に立ててもらえたらと考えております。

日本医薬情報センター（JAPIC）の医薬品情報サービスは製薬企業と医療機関との架け橋を第一に考え提供いたしておりますが、その媒体はインターネット等を介しての医薬情報データ、書籍などなどです。これらの情報は信頼性の高いものばかりで、会員の皆様から好評を頂いておりますが、さらに味、風味、感触なども盛り込み温もりを感じられる情報提供とはいかなるものか、実践したいと意欲を燃やしております。

趣味は 13 年ほど続けております読書です。興味ある地名に因んだ本、俗に言えばご当地物を市立図書館の検索ソフトで捜します。京都に行く機会があれば「京都祇園祭り殺人事件」、横浜なら「横浜クイーンエリザベス号殺人事件」と言う訳です。物語はフィクションですが、地名、由来などは正確でその地に親しむにはとても参考になります。最近では JAPIC の所在地にちなみ「骨董通り物語」「南青山探偵事務所」などです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

「理事会」「評議員会」の概要報告

さる3月10日(金)に第18回評議員会, 17日(金)に第102回理事会が開催されました。それぞれの議題は以下の通りであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

主なものとして、

任期満了に伴う次期理事・監事及び評議員の選任があり、理事6名、監事1名、評議員7名の方が新たに選任。

平成17年度の決算において、約2億円の収入超過が見込まれるので、当初予算を補正し減価償却引当預金等に積み立てをする。

平成18年度事業計画(案)は、前年度からの継続事業の中で未だ成熟していない事業を充実させていく。

などが承認されました。

なお、ご承認いただきました平成18年度事業計画は、後日会員の皆様へお送りさせていただきます。

「第18回評議員会」 3月10日(金) 15:00~16:30, 当センター3階会議室

《議 題》

1. 次期理事・監事の選任
2. 平成17年度事業報告(4~2月)
3. 平成17年度収支予算の補正(案)
4. 平成18年度事業計画(案)
5. 平成18年度収支予算計画(案)

「第102回理事会」 3月17日(金) 15:05~16:45, 当センター3階会議室

《議 題》

1. 次期評議員の選任
2. 維持会員・賛助会員の異動承認
3. 平成17年度事業報告(4~2月)
4. 平成17年度収支予算の補正(案)
5. 平成18年度事業計画(案)
6. 平成18年度収支予算計画(案)

【役員・評議員の異動】 (敬称略)

《理 事》

退任: 渡守武 健 (大日本住友製薬 相談役)
藤原 譲 (元 独立行政法人工業所有権総合情報館 理事長)
益澤 秀明 (元 関東通信病院 脳神経外科部長)
山崎 幹夫 (新潟薬科大学 学長)
松本 和男 (財団法人日本医薬情報センター専務理事, 常勤)

新任: 小西 庸一 (アステラス製薬 営業本部 DIセンター所長)
三塩 晋作 (大日本住友製薬 執行役員)
松木 則夫 (東京大学大学院薬学系研究科 教授)
村勢 敏郎 (財団法人冲中記念成人病研究所 所長)
望月 眞弓 (北里大学薬学部 教授)
山地 正克 (財団法人日本医薬情報センター 開発企画担当部長)

(任期: 平成18年4月1日~平成20年3月31日)

《監 事》

退 任：岸本 正裕（元 日本製薬団体連合会 理事長）
三浦 和彦（日本児童教育専門学校 相談役）

新 任：羽入 直方（日本医薬品卸業連合会 専務理事）

（任期：平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

《評議員》

退 任：石墨紀久夫（元 住友製薬 取締役常務執行役員）
井上 圭三（日本薬学会 顧問）
岡安 次郎（鳥居薬品 医薬営業グループ顧問）
ジェームズ・ミッチャム（元 アベンティス ファーマ 代表取締役会長兼社長）
中岡 靖晶（前 旭化成ファーマ 代表取締役社長）
新田 進治（日本大衆薬工業協会 名誉顧問）

新 任：大江 啓（旭化成ファーマ 代表取締役社長）
柴崎 正勝（日本薬学会 会頭）
鶴田 康則（日本大衆薬工業協会 理事長）
松尾 紀彦（鳥居薬品 代表取締役社長）
山本 達雄（サノフィ・アベンティス 薬事本部本部長 執行役員）
吉田 逸郎（医薬工業協議会 会長）
依田 啓司（日本病院薬剤師会 副会長）

（任期：平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

平成 18 年 1 月から 4 月までに JAPIC の会員として新たにご入会
いただいた会社・機関

ホスピーラジャパン株式会社
東京ガスケミカル株式会社
NTT 東日本関東病院
神戸薬科大学
岐阜薬科大学
城西国際大学薬学部

エフピー株式会社
三笠製薬株式会社
青森大学薬学部
熊本大学薬学部
東京薬科大学
武蔵野大学薬学部

リードケミカル株式会社
埼玉第一製薬株式会社
愛知学院大学薬学部
東京理科大学薬学部
崇城大学薬学部
摂南大学薬学部

ラオスと薬草

沢田 誠二 元国際協力機構派遣専門家ラオス教育省、
京都教育大学名誉教授

e-メール sssawada@mvd.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~higeji-/laos/>

<http://homepage2.nifty.com/DEFC/>

ラオスは東南アジアの内陸国、遠くヒマラヤから続く褶曲山脈の裾、山また山の地域に位置します。国際河川メ・コンの中流域を持ちこの大河でタイ国と、峻険な山岳でヴェトナム、中国、ミャンマーと、巨大な滝と高原でカンボジアと接しています。国土面積は日本の本州とほぼ同じ、人口 560 万人、内 15 歳以下が 45%、言葉や生活習慣が違う約 50 の民族からなる多民族国家です。現政権が誕生して 30 年、国民一人当たり総生産は年 330 米ドル、識字率 49%、人間開発指数 162 国中 131 の国です。以下は国民の出生等（何れも 1998-2000 年）の統計数値です。

自宅出産率： 86（都市 44、村 91）%

女性当り出産数： 5.6 回（内 15 - 19 歳女性出産率 13.3%）

妊産婦死亡率： 0.53（都市 0.17、村 0.58）%

乳児 1 年以内死亡率： 9.0（都市 4.2、村 9.4）%

5 歳未満死亡率： 10.7（都市 4.9、村 11.4）%

人口増加率： 2.5%（内粗出生率 3.9、粗死亡率 1.3%）

平均余命： 男 53、女 55 歳、

国民の 3 人に 1 人があるとしても貧弱な医療施設からほど遠いところに住んでいます。出生から幼児期までの死亡率が特に高いのです。下痢や腹痛、寄生虫など消化器系の病気、マラリア、デング、結核、肺炎、肝炎等の感染症も多いことで国民の平均余命は 50 歳台です。一旦病気になると人々は薬草などの伝承薬を使い、悪霊払いを受けます。これで治らないと売薬を使います。遠くにしかない診療所や病院へ行くのはよほど症状が重くなってからです。それも金がなかったら行けません。“死は自宅で迎えるもの”という通念があり、親族は死の直前に病人を家へ連れ帰ります。

このような生活環境ですが人々は屈託なく暮らしています。医食同源(薬膳)の考え方から来るのでしょうか、ここの人々は森や池、川からのいろんな恵みを食糧とします。伝承民間薬も実にさまざまです。草や木の皮の煎じ湯は日常の伝承薬、ヘビやサソリ、珍しい野生動物の角や骨までラオスの蒸留酒ラオラオに漬け珍重します。

産褥に関する風習は地域や民族ごとに多様で民俗学の格好のテーマと思えます。この内で共通しているのが産後の母親への「オク・ファイ」です。この風習は「ナム・ファイ」,「ユー・ファイ」,「ナム・カン」,「ユー・カン」とも言われます。何れも「薬草温浴」とでも言う意味です。筆者は実際の様子を見ていませんが、これを何度も体験している婦人からの聞き取りを紹介します。

この風習で産後の母親はさまざまな行動や食物制限と合わせて、数週から数か月間薬草をくべた炉を下に置いた床の上で過ごさなければなりません。幾つかの儀式を伴うこの風習は実母または義母、親戚や村人たちが受け継いでいます。「オク・ファイのおかげで子どもたちは無事に育ち、私もこれという病気なしに元気で来られた」と言う高齢の婦人も多くいます。一方、この風習は産後の母親にとっては快適どころかむしろ苦痛であるようです。行動が制限されたうえ、炉が熱すぎたり燻しがきつすぎたりの原因でやけどやアレルギーになる場合もあるからです。異常出産や手術を受けた母親の場合、傷が治らず悪化してしまう場合もあり、この風習を否定する医者も出てきています。しかし、今でも「オク・ファイ」は一般的に行われています。

(写真1)

炉にくべる薬草で代表的なものが“バイ・ナツ(ツは無声音)”(写真1、別名：ナーツ・ルアン、学名：*Blumea balsamifera* (L.)D.C.)です。ボルネオール、カンファー、シネオールなどのテルペンを含み、薬草サウナ、鼓腸、咳や風邪の治療に使われると報告があります。乾燥したこの木の葉は普通の枯れ葉の香りがするだけです。試しに燻して見ましたが、ほうじ茶様の香りがする程度でした。この“燻し”に合わせて「薬湯(煎じ湯)」が使われます。地域や民族によってさまざまあるようです。



最近都市部では薬草詰め合わせが市販されています(写真2)。どんな植物がどれだけ入っているのかわかりませんが、結構売れているようです。



(写真2)

産後の食事制限は厳しかったと先の婦人は言います。出産直後の数日間はお米とこれに付ける少量の塩、油でいためたショウガだけ、以後数週間は地鶏または黒豚が許された。これら以外のものは、「ユー・ファイ明けの儀式」が終るまでを食べられなかったそうです。何故そうなのか理由も尋ねましたが、あいまいでした。

「ユー・ファイ」の風習は産婦の肥立ち養生や授乳のための健康と環境管理などに加え、先祖霊への挨拶や悪霊払いまで多様な意味が含まれています。程度の差はありますが、これらの願いが無い交ぜになってこうした風習が出来上がってきたのでしょう。この風習のもと、生葉を燻して蚊やハエなどうるさい虫、またニワトリのなど家畜の闖入を防ぐことにあったのかも知れません。また、日本の菖蒲湯やミカンの皮を湯に入れる風習と源流は同じかも知れません。ラオスでは一部の寺院で薬草を入れた蒸し風呂が施療として行われていました。今これは“薬草サウナ”として観光客の人気スポットになっています。

日本製薬工業協会（製薬協：JPMA）は、国際協力事業団（略称：JACA）と共にラオス国営医薬品工場への設備保全支援などを行っておられることが、JPMA News Letter No.103（2004）に掲載されています。それによれば、ラオス自国製医薬品の医療機関への供給率は約30%であり、残りはタイ国などの東南アジア製とされています。ラオス自国で安定した医薬品供給の体制確立にはまだまだ時間がかかると思われます。そのような状況の中で、2年6ヶ月ラオスに滞在されていた沢田誠二先生にラオス人と“くすり”の関わりについて、その実態を3回にわたり紹介していただくことにしました。

<編集委員会>

Library

図書館だより No.191

◀新着資料案内 - 平成 18 年 3 月 10 日 ~ 平成 18 年 4 月 10 日受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧いただけます。
お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
Data Book 2006				
日本製薬工業協会 広報委員会 編	医薬出版センター	2006年 1月	94p	
FASS 2006 Forteckning over humanlakemedel				
Lakemedelsindustriforeningen, LIF	LIF	2006年	2,858p	
スウェーデンの医薬品集				
GCPと新しい治験 薬事法改正を受けて[改訂版]				
医薬品医療機器総合機構信頼性保証部 監修	薬事日報社	2006年 3月	352p	¥4,410
ハリソン内科学 第2版				
福井 次矢、黒川 清 監修	メディカルサイエンスインターナショナル	2006年 3月	2分冊	¥31,290
平成17年度創薬等ヒューマンサイエンス総合研究推進事業研究成果等普及啓発事業 EBMに基づく医薬品の安全性・有効性を確立するための海外の大規模臨床データの解析、評価に関する研究				
主任研究者:森川 肇 編	ヒューマンサイエンス振興財団	2006年 2月	57p	¥3,390
インスリン分泌促進薬 - SU薬とグリニド				
清野 裕 編	フジメディカル出版	2006年 4月	120p	¥2,940
医療用医薬品品質情報集 (平成18年3月版) 付録 日本薬局方外医薬品規格第三部				
厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2006年 3月	199p	
痛みの治療薬 その基礎から臨床まで				
Howard S. Smith著、井上哲夫 他監修	エルゼビア・ジャパン	2005年 11月	702p	¥7,140
医用超音波用語集 第4版				
日本超音波医学会 編	日本超音波医学会	2005年 12月	123p	
JAPIC 日本の医薬品構造式集 2006				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 3月	204p	¥2,940
健保請求事務の効能・用法 薬価表 2006年4月版				
石崎 政男 編	中和印刷	2006年 3月	1,146p	¥6,825

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
器官別 病態生理と治療薬 第2版 - EBMに基づく薬物治療のために	橋本 久邦 編	じほう	2006年 3月	1,389p	¥9,450
北里研究所東洋医学総合研究所 漢方処方集	金 成俊 編	北里研究所東洋医学総合研究所	2003年 8月	408p	¥2,625
今日の治療薬 2006	水島 裕 編	南江堂	2006年 3月	1,293p	¥4,830
厚生労働省名鑑 2006年版	米盛 康正 編	時評社	2006年 3月	385p	¥5,301
南山堂医学大辞典 改訂19版	相川 直樹 他編	南山堂	2006年 3月	3,180p	¥12,600
日本人のための高血圧治療Q&A - エビデンスを踏まえて	檜垣 實男 編	医薬ジャーナル社	2006年 1月	166p	¥3,360
日本造血細胞移植学会 平成17年度全国調査報告書	日本造血細胞移植学会全国データ集計事務局	日本造血細胞移植学会全国データ集計事務局	2006年 3月	253p	
Repertorium 05/06	Pharma Publishers B.V.	Pharma Publishers B.V.	2005年	1,137p	
オランダの医薬品集					
社会保険診療報酬薬価・点数早見表 大改正版	石崎 政男 編	中和印刷	2006年 3月	1,016p	¥4,280
新薬承認情報集 平成17年 No.31 ミグリトール[セイブル錠 25mg、50mg、75mg] (平成17年10月承認)	日本薬剤師研究センター	日本薬剤師研修センター	2006年 3月	1,376p	¥10,290
Supplement to the Japanese pharmacopoeia 14th ed.	The Ministry of Health, Labour and Welfare	厚生労働省	2006年 3月	204p	
USP dictionary of USAN and international drug names 2006	The USP Convention, Inc.	USP Convention, Inc.	2006年	1,267p	¥57,290
薬価基準点数早見表 平成18年4月版	じほう 編	じほう	2006年 3月	924p	¥3,780
薬効別薬価基準 保険薬事典 平成18年4月版	薬業研究会 編	じほう	2006年 3月	797p	¥4,620
薬物相互作用トップ100 第4版	Philip D. Hansten、菅家 甫子 他訳	医歯薬出版	2005年 10月	449p	¥3,570
薬事法・薬剤師法関係法令集平成17年版 別冊追補版	薬事行政研究会 監修	薬務公報社	2006年 3月	970p	¥4,200

その他資料・寄贈等

1. 星薬科大学紀要 No.47 / 星薬科大学 / 137p / 2005
2. 国立循環器病センター業績年報 No.25 2004 / 国立循環器病センター / 211p / 2006

「JAPIC 医薬資料ガイド」 2006 年版を刊行

例年どおり、上記資料ガイドを発行いたします。

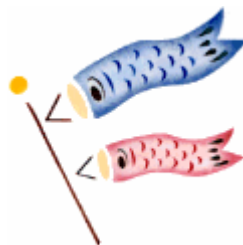
これは JAPIC で所蔵する逐次刊行物（2006 年 4 月現在所蔵の国内雑誌 635 誌、外国雑誌 71 誌）の一覧と、内外の薬事関係資料、世界の医薬品集（54 カ国 156 種）、薬局方等（22 カ国 68 種）、治験薬情報、医薬品の名称集・同義語集、副作用関連情報誌等の資料について解説を加えました。

また、JAPIC 作成の『医療用医薬品集』他の各種出版物、「iyakuSearch」等のデータベースの紹介、JAPIC 各種サービス料金表も掲載しております。

本ガイドは JAPIC 会員機関の業務担当者宛に刊行次第 1 部お送りいたします。さらに追加ご希望の場合は本体無料着払い宅急便でお送りします。下記宛お申し込みください。

< 定価 : 3,150 円 >

「JAPIC 医薬資料ガイド」 2006 年版
お申込先: (財) 日本医薬情報センター(JAPIC)附属図書館
FAX.03-5466-1818
e-mail: tosho@japic.or.jp



＋ 情報提供一覧

平成 18 年 4 月 1 日から 4 月 30 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
 出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当
 (TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」4月号	4月28日
2. 「Regulations View」No.128	4月28日
3. 「JAPIC NEWS」No.265	4月28日
4. JAPIC「医療用医薬品集」更新情報 2006年4月版	4月28日
5. 「添付文書記載病名集 2006 4月版」	4月24日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.530 - 533	毎 週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」	毎 週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1193 - 1212	毎 日
5. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.135 - 138	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日
デ ー タ ベ ー ス 一 覧	
更新日	
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
5. 規制措置情報	毎 日
6. 臨床試験情報	随 時
<JIP e-InfoStream から提供> < https://e-infostream.com/ >	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	月 1 回
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
6. 「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)	月 2 回
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	月 1 回
<JST JDream から提供> < http://pr.jst.go.jp/jdream2/ >	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回